

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 市 長		平成28年7月29日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市下京区塩小路烏丸西入東塩小路町614番地		報告者の氏名（法人にあっては、名称および代表者名） 京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長 福山隆夫
京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。		
環境マネジメントシステムの名称	環境マネジメントシステム（KESステップ2-SR、ステップ2-En）	
適用範囲	京都駅ビル、事務所	
導入年月日	24年 6月 1日	
認証番号	KES2SR-0001、KES2En-0001	
基本方針	<p>京都駅ビル開発株式会社は、「持続可能な発展への貢献を最大化」することが人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて、SR活動及びエネルギーパフォーマンスの向上とともに、環境負荷の低減に努めます。</p> <p>京都駅ビル開発株式会社は、京都駅ビルに関わる全ての活動、製品及びサービスのSR活動及びエネルギーパフォーマンスの向上とともに、環境影響低減のために、次の方針に基づき環境（SR・エネルギー）マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。</p>	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	<p>①地域コミュニティへの参画→「下京・京都駅前サマーフェスタ」、「京都・梅小路みんながつながるPJ」及び京都駅周辺の環境整備。</p> <p>②環境共生推進への取り組み→「緑水歩廊」による緑化等の情報発信、専門家・学生への場の提供。</p> <p>③京都駅ビル原油換算エネルギー量の削減→前年比6.5%削減</p> <p>④事務所電力使用量の削減→電力使用前年比1%削減</p> <p>⑤京都駅ビルゴミの再資源化→一般廃棄物の再資源化率55%、食品廃棄物再資源化率99%の維持、店舗別100%未満日数半減</p> <p>⑥事務所ごみ容量削減→10%</p>	
目標を達成するための取組の内容	<p>①地域コミュニティへの参画→「下京・京都駅前サマーフェスタ」、「京都・梅小路みんながつながるPJ」及び京都駅周辺の環境整備等を継続して実施。</p> <p>②環境共生推進への取り組み→「第4回いきものにぎわい活動コンテスト」へ応募。緑化等の情報発信。</p> <p>③京都駅ビル原油換算エネルギー量の削減→28年1月より順次新たな高効率熱源器を導入し稼働させた。</p> <p>④事務所電力使用量の削減→ケル・ウォール・ヒートズ®実施、事務所別電気使用量管理等</p> <p>⑤京都駅ビルゴミの再資源化→再資源化率を管理し、店舗指導を行う。</p> <p>⑥事務所ごみ容量削減→一般ごみからプラスチックゴミを分けて収集する。</p>	
目標を達成するための取組の進捗状況	<p>①地域コミュニティへの参画 「下京・京都駅前サマーフェスタ」、「京都・梅小路みんながつながるPJ」及び京都駅周辺の環境整備等を継続して実施した。</p> <p>②環境共生推進への取り組み 「緑水歩廊」による緑化等の情報発信と専門家・学生への場の提供、外部への情報発信を行った。</p> <p>③京都駅ビル原油換算エネルギー量の削減→28年1月より順次新たな高効率熱源器を導入し稼働させた。2.6%削減</p> <p>④事務所電力使用量の削減→前年比約2%増加</p> <p>⑤京都駅ビルゴミの再資源化→一般廃棄物の再資源化率55%、②食品廃棄物再資源化率99%</p> <p>⑥事務所ごみ容量削減→前年比約20%増加</p>	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<p>②の項目については、「第4回いきものにぎわい活動コンテスト」の審査委員特別賞を受賞し、「A」（100%以上達成）の成果を得た。</p> <p>①③④の項目について「B」の成果だったが、①は天候に左右されたため、③は新旧機器の併用期間が長くなったため、④給湯器故障による加熱給電が原因。</p> <p>⑤⑥の項目については「C」の成果だったが、③については、一部の店舗に未達成が集中したため、⑥については、合計は増加したが、分別方法の変更により、4月・5月は前年に比べ削減することができた。</p>	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関係法令を調べると共に、調査の結果遵守できていることを確認した。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	<p>①地域コミュニティへの参画→サマーフェスタ開催等</p> <p>②環境共生推進への取り組み→緑水歩廊の情報発信。専門家・学生への場の提供。</p> <p>③京都駅ビル原油換算エネルギー量の削減→前年比15.5%削減</p> <p>④事務所電力使用量の削減→1%削減</p> <p>⑤一般廃棄物及び食品廃棄物の再資源化率の維持→一般廃棄物及び食品廃棄物再資源化率維持。</p> <p>⑥事務所ごみ分別徹底と排出量削減→ごみ容量前年比1%削減</p>	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。